

大学院生に望む

玉川大学長 小原芳明

高学歴化した日本社会で活動していくには、より多くの、そして高度な情報が必要です。新しい知識はさらなる知識を求め、その応用で出現した科学技術も「次世代」の知識を求めます。知識を生み出す活動は過去から行われてきたことですが、それは時代が進むにつれて加速されてきています。情報伝達技術の発展は新たに生産された知識の輪を地球規模で広げていますが、それがまた知識生産を早めるという相乗作用となります。それゆえに、知識が増える様は、「日進月歩」ではなく「秒進分歩」と言われるようになったのでしょう。どの社会も STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) 分野の教育に力を入れて世界をリードしようとしています。大学院での修学はそうした活動の基礎を担っているのです。

とかく古い知識＝無益な知識と捉えがちですが、既知の知識をより深く理解した上に、新しい知識と技術が生産されているのも事実です。温故知新というように、基礎となる知識を土台にして新たな知識を修得する機会も、大学院における学修です。ここで求められるのは、師弟同行であり双方向の知的活動への積極的参加です。それは単に知識を貰い受けるのではなく、知識を得るために自ら行動し、未知の領域に「一歩前へ踏み込む」Proactive な心構えを必要としています。本学が 12 の教育信条で掲げている「第二里行者」の精神とは、まさしくそのプロアクティブな心構えのことです。

どの社会も、より良い明日を目指し、社会へ貢献できる人を必要としています。そして、いつの時代でも、社会はより良い社会を創り出せる人的資本の構築を求めているのです。日本は輸出できる地下資源に恵まれていません。わが国にとって STEM 分野の人的資源がいかに重要であるのかを認識し、社会に貢献できる人間となることを大学院での学修目的としてください。